

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2694000254		
法人名	社会福祉法人 三頂福祉会		
事業所名	グループホーム洛西(1)		
所在地	京都市西京区大枝東長町1-610		
自己評価作成日	令和3年2月23日	評価結果市町村受理日	令和3年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2694000254-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2694000254-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年4月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念にあります、「その人らしく」「今までの生活の延長で」を尊重して、今までの暮らしと変わらないように、施設で過ごして頂く事を心掛けています。出来る事はご自身で、自立を促し、残存機能の低下の防止、維持向上に努めています。一人一人に寄り添い、安全、安心して暮らせるように入居者の気持ちを考えております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは利用者が自宅での生活と同様の暮らし方ができるよう起床時間や食事時間等今までの一日の過ごし方を詳細に把握し、個々に合わせて自由な生活ができるよう支援しています。コロナ禍になり外出が難しくなりましたがも気候の良い時は広いテラスでの散歩や食事、外気浴等をし、ホーム内で運動会の実施や日々のレクリエーションにおいても歌や体操、クロスワード等の他、昔の懐かしい映画鑑賞等、様々な楽しめる企画を取り入れています。家族との関係も大切にし広報誌や写真、手紙等を送付し日々の暮らしの様子を伝え、満足度調査や電話、サービス担当者会議で要望を聞く他、リモート面会も行っています。職員は会議や日々の業務の中等で話し合う機会を多く持ち、連携良く利用者の安全や安心を守りながら、より良い暮らしの実現に向けて取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初入社日にオリエンテーションを行い、法人理念を説明を行い、情報共有を行っている。理念の考えを現場の事例をあげ説明を行う。	「その人らしく今までの生活の延長で」という法人理念を職員休憩室入口前に掲示したり、新任オリエンテーション時に説明し職員への周知を図っています。入居前の面談で利用者個々の今までの暮らしを把握し、自宅と同様の生活が送れるよう会議の中で話し合うと共に理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、地域の行事が中止となり、交流は出来ず。運営推進会議の資料・議事録を配布して施設の情報をお伝えした。	例年は地域行事である地蔵盆への参加や運動会の見学に出かけたり、楽器演奏等のボランティアの来訪等地域との交流を図っていましたが、コロナ禍においては地域の行事が中止となり参加ができていない状況であり、社会福祉協議会へ賛助金を直接届けるなど少しでも関わりが持てるよう努めています。コロナウイルス感染収束の際は地域との交流に向けて取り組む予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へのアピールは行えず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で、会議の開催は行えず、会議の資料・議事録を配布して施設の情報をお伝えした。	例年は家族数名や自治会長、民生委員、社会福祉協議会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回行い、利用者の状況やホームの予定、事故報告等を行い意見交換をしており、誤薬等について参加者からアドバイスをもらうなどしていましたが、コロナ禍においては報告書や議事録を送付し開催としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録・事故報告書などを持参する為、窓口へ訪問する。京都市より衛生用品の配布などがあつた。	運営推進会議の議事録を届けたり、書類の手続きや事故報告等で窓口を訪れており、疑問点等がある場合は電話で聞くようにしています。腰痛予防等のリモートによる研修を受けたり、アンケート依頼への協力の他、注意喚起が届いた場合は職員に周知しています。コロナ禍においてはマスクや消毒液、防護服等の配布を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年2回実施を行う事としている。研修へ参加出来ない職員へ資料を配布している。初入社日のオリエンテーション時に資料を配布して身体拘束のあり方の情報共有を行っている。センサーマットを使用している入居者はいるが、会議で必要性の有無を検討している。	年2回法人主催の研修を受けた職員が資料を基に伝達し周知しています。言葉による行動の制止があつた場合はリーダーが都度注意をし、会議で話し合うようにしています。併設事業所と身体拘束適正委員会を2か月に1回行い、内容を全職員に伝達しています。フロア入口は施錠していますが、外に出たい希望があればゆつくりと話を聞いたり、テラスでの外気浴や別のユニットに行くなど気分転換を図っています。	

グループホーム 洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行う事としている。研修へ参加出来ない職員へ資料の配布をしている。初出社日のオリエンテーション時に資料を配布して虐待防止のあり方の情報共有を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人のおられる入居者がいるが、学ぶ機会を設けることは出来なかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結日、解約日には、契約書、重説などで説明を行い、随時質問へは対応を行っている。納得を頂き、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に、施設の取り組みや、今後の予定の報告を行い、要望を聞き、施設運営への反映を行っている。新型コロナウイルスの影響で面会を制限している。写真などで様子をお伝えする。月1回の広報誌を配布している。	利用者からは家に帰りたいという要望があり、家族に電話をしたり、リモートで面会をしてもらうようにしています。家族には2ヶ月毎に広報誌や写真、手紙等を送付し日々の暮らしの様子を伝え、意見や要望については電話やサービス担当者会議、リモート面会時等で聞いています。利用者の様子を知りたい事や面会の要望があり、電話をかけ伝えたり、リモート面会等を実施しています。年1回満足度調査を行っており得られた意見や要望等については速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア長会議、フロア会議を実施して、現場の意見を聴く機会を設けている。管理者会議で意見をまとめ早期解決に努めている。入居者の介助方法の変更など会議で検討する。年2回の職員の面談・アンケートを実施している。	職員からの意見や提案は月1回の会議や申し送り、年2回の職員面談時、職員へのアンケート調査等で聞いており、会議に参加できない職員からは事前に口頭で意見を聞くようにしています。出された意見から車いすや柵の設置等物品購入や排泄支援など時間帯の見直しを行い、統一したケアができるよう業務改善等に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を行っている。出来ている部分、出来ていない部分の確認を行い、改善する部分については指導を行うようにしている。職場環境・条件の設備は、その都度意見が出てきた時に、検討を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響で外部研修の参加は出来ていない。施設内研修を月1回行い、サービスの向上・接遇面での向上を行っている。		

グループホーム 洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で外部への研修参加は出来ず。インターネットより外部の情報を集め、サービスの質の向上へ取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談、入居後は、こまめな声掛けと様子観察を行い、本人の思いを聞き取るようにしている。24時間シートの活用をして情報収集を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談、契約時に施設の説明、計画書の説明、面会時に様子を伝え、ヒアリングを行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の計画書の確認を行う。ご本人・家族の意見を確認する。施設への要望を確認して介護を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築くように努力はしている。本人と交流を持ち、少ない情報から思いを聞くようにしている。フロア会議などで情報を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築くように努力はしているが、具体的な事はおこなっておらず		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で面会を制限している。年賀状などが届くことがあり、本人へお渡ししている。ご様子を家族へ伝えている。	入居に向けての面談時に利用者の馴染みの人や場所について話を聞き、アセスメントシートに細かく記載し職員間で共有しています。例年は友人や親戚等馴染みの方の面会の他、家族と一緒に自宅に帰ったり法事や葬式等にも参列していました。コロナ禍においては外出自粛となり友人からの電話の取次ぎやはがき等が届いた際は利用者に渡し一緒に読んだり、持参したアルバムを見ながら懐かしい話をするなど馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	

グループホーム 洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	コミュニケーションを取れない利用者へは、 職員が声掛けを行い、交流を行うようにして いる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後は、特に連絡は行っていない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人様・ご家族様と面談を行い、思いを聞き 取りしている。入居前の様子などを聞き、出 来だけ施設でも同じように過ごせるように している。	入居に向けての面談で本人や家族から生活歴や 意向、趣味、特技等を聞きアセスメントシートに記 載し、ケアマネジャーからの情報も合わせて思い の把握に努めています。入居後は特に寄り添い 声掛けや様子を観たり、家族から聞いたこと等を 介護記録に記載し共有するとともに会議で本人本 位に思いや意向を検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	面談時に今までの暮らしを確認し、今までの 生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	面談時に今までの暮らしを確認し、今までの 生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	居宅サービス計画書、本人、家族の意向を 確認して計画書を作成、同意を得ている。モ ニタリングを定期的に行い、必要であれば 再アセスメントを行っている。	本人や家族の意向を確認し介護計画を作成し入 居後は3ヶ月、その後は6ヶ月で見直しを行い、特 に状況に変化がなければ1年毎に見直しをしてい ます。6ヶ月毎に職員の意見を聞きながらモニタ リングを行い、見直し時には再アセスメントと基本家 族の参加を得てサービス担当者会議を行い、不 参加の場合は事前に意向を確認し、往診時に聞 いた医師の意見等も計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング、個別の記録を作成して、個別 の計画書を作成をしている。		

グループホーム 洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、御家族の意見を聞きながら、出来る範囲で対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で地域との交流は出来ていない。施設より運営推進会議の委員へ情報を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の指定の往診医へ診てもらっている。以前からのかかりつけ医がご希望の方は、かかりつけ医に診てもらっている。往診医の専門外の受診が必要な場合は、家族と調整をして家族に協力をしてもらうようにしている。	入居時にかかりつけ医を選択してもらい、現在は全利用者が協力医に変更し月2回の往診を受けています。併設施設の看護師が健康管理をしており、体調不良時は直接連絡をし支持を仰いでいます。専門医への受診は協力医の紹介状を持参することもあり家族が対応しており、必要に応じて職員が対応し受診結果については書面や口頭にて共有しています。訪問歯科は週1回必要な利用者のみ受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に1日、1～2名の看護職員が日勤帯で勤務をしている。異常がある時は、看護職員へ相談を行い、確認をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカー、家族と連絡を取り、情報交換を行っている。入院時は、施設の看護サマリーを渡すようにしている。退院前に本人へお会いで来るときは病院へ訪問を行い、情報を聞き取る。退院時は看護サマリーをもらうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化、看取りについての説明を行っている。看取りについては、御家族の希望を聞く事としている。看取り支援を行う場合は、往診医・家族・施設と相談を行い、計画書の作成、記録の整備を行っている。看取りについての研修を行っている。	入居時に看取り指針を基に家族に説明し医療行為が発生した場合はホームでの支援ができないことを伝えていきます。重度化した場合は再度、家族の意向確認をし協力医を交え家族と職員で話し合いを重ね方針を共有する体制を作っています。今まで看取り支援の経験はありませんが、年1回の看取りに関する研修を行い学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行い、フローチャートに基づき行動するようにしている		

グループホーム 洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。内部研修を行い、マニュアルの確認を行っている。昼・夜2回の避難訓練を実施。新型コロナウイルスの影響で消防署の立ち合いの訓練は延期している。地域との協力体制は築けていない。	例年は年2回の防災訓練を行い内1回は消防署立ち合いの下屋想定で行い、1回は併設の事業所と合同で独自の訓練を行っています。コロナ禍においては通年と同内容で昼夜を想定し法人職員のみで行っています。法人が地域の福祉避難所として登録しており、飲料水や缶パン、レトルトのご飯、毛布やカセットコンロ、懐中電灯等を準備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けを心掛けている。プライバシーの保護・認知症についての研修を行い、ケアの向上に努めている。その人にあったケアを心がけています。	年1回接遇に関する研修を受けた職員が伝達し周知しています。人格を尊重した声かけに留意し呼称は苗字で、声のトーンにも気をつけながら敬語での会話を基本とし、不適切な対応があった場合は会議の中で話し合ったり、都度リーダーが注意をしています。希望があれば同性介助にも配慮し、個々の利用者に合わせた支援ができるよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見を尊重しながら、ご自身の希望を聞くように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望し添いながら、声掛けや、見守りを行っている。ご本人のペースへ出来るだけ合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中は、ご自身で選べる入居者はご自身で着替えが出来るように支援をしている。夜間は、全員パジャマに着替えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房で3食食事を作っている。行事食や旬の物を取り入れた食事を提供している。新型コロナウイルスの影響で、おやつ作りなどのレクリエーションを行えずである。	食事は3食共、法人の併設施設の厨房で盛り付けしたものが届き、ご飯と汁物についてはホームで盛り付けし提供しています。年数回焼きそばパーティや鉄板焼きなどをしたりテラスでの食事を楽しむこともあります。コロナ禍以前はホットケーキ等利用者と一緒にも作ることもあり利用者の楽しみごととなっていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	希望時や、決まった時間に水分の提供を行っている。希望者には、居室で飲めるように準備を行っている。		

グループホーム洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、夕食後には、全員口腔ケアを行うようにしている。昼食後は、希望者のみ対応を行っている。看護職員が確認を行い、必要に応じて歯科往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意がある入居者は、要望時トイレ誘導を行っている。定時の声掛け、誘導を行う。トイレを使用していた場合は、施設でも準備使用してもらうようにしている。排泄用品についても本人にあった物を使用できるように定期的に検討している。	日中はほとんどの利用者がトイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表を基にパターンを把握し定期的に声かけや誘導を行っています。入居後は個々に合わせたパット等の排泄用品の選択や支援方法についてフロア毎に随時話し合い、業者に相談することもあり、会議の中で検討し個々のケアの統一化を図っています。退院後は元に戻れるよう支援に取り組みほとんどの方が入院前の状態に戻っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などで体を動かすようにしている。水分補給の促しも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、職員が決めた時間に対応を行っている。個浴で1対1での対応を行っています。個浴を使用している為、毎回湯のはりかえを行っています。体調不良時は清拭を行うなどの対応を行っています。	入浴は週2回、ほとんどの利用者が湯船につかれるように支援しています。湯は一人ずつ入れ替え、こだわりの化粧水等持参している方もおり、職員と会話を楽しみながらゆっくりと入ってもらっています。入浴の拒否があった場合は日時の変更や職員を変更し無理のないよう入浴支援に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の状態に合わせて対応を行っている。退院時などは出来るだけ臥床を促し、体調管理に注意をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用などの把握までは出来ていない。薬は、職員が管理を行い、決められた時間に服用して頂くように支援をしている。往診時に往診医へ状態を伝え、薬の変更などの指示をもらうようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はご自身で行って頂くように声掛けなどを行っている。昔の趣味などを聞き、出来る事があれば、参加への促しを行っている。拒否をされる事もある為、無理には勧めず、その人にあった対応を行っています。		

グループホーム 洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出する機会がほぼなかった。ベランダに出て、気分転換は図れるようにしています。地域の方との交流はありませんでした。	例年は地域の地蔵盆や運動会の見学等地域行事への参加の他、桜やコスモス、紅葉見学等季節毎の外出もしていましたが、コロナ禍においては家族や職員と病院へ通院する他、テラスでの外気浴や食事、そこから見える桜の花を愛でる等の支援をしています。感染症収束後は外出を再開できるよう考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で使用する事はない、御家族様へ管理は依頼をしている。ほしい物がある場合は、家族へ持参の依頼をするか、職員が立替を行い購入をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの要望時は、ご本人と電話が出来るように支援をしている。手紙は、御家族へ連絡後に本人へ渡すなどの対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に心掛けている。季節の行事に合わせた飾りつけを行っている。消毒を決められた時間に行っている。冬の間は乾燥に注意をして加湿を行っている。	ひなまつりや七夕、クリスマス等の飾りつけを行い季節毎の雰囲気づくりに努めています。掃除や換気、消毒等可能な利用者と一緒にいき、空気清浄器や加湿器、温湿度計を設置し利用者の体感にも留意しながら快適に過ごせる共有空間を作っています。随所に二人掛けのソファを置き、思い思いの場所でくつろいで過ごせるよう工夫し、テーブル席については利用者の相性等により変更することもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が、入居者の性格を確認をしたうえで、席の配置を検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人、御家族の希望に合わせ、持ち込み家具の制限は行っていない。その人が自宅で使っていた家具を持ち込んで入居者もおり、居室内を自由に使用してもらっている。	各居室にベットとダンスが備え付けられ、入居時に使用していた椅子やダンス、テレビ等を持参してもらい本人と家族が相談しながら配置をし、入居後は動線等により変更することもあります。遺影や家族の写真、絵画や陶芸等の自身の作品等大切な物や好きな相撲の本、小説、週刊誌等を持参し楽しんでいる方もおりその人らしい居室となっています。掃除や換気を行い清潔保持にも努め、希望により布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は、ご自身で行って頂けるように環境作りに努めている。その人の思いの確認を行い、その人にあった生活が出来るように支援をしている。		